

登別らしい幼児教育・保育の確立を

～登別保育所オープン・幼保一元化モデル事業スタート～

7月1日(金)、登別本町に新設された登別保育所がオープンし、幼保一元化モデル事業がスタートしました。

同保育所は、登別温泉保育所の移転や登別・富浦両保育所の施設の老朽化に伴う統廃合、未満児(0～2歳児)保育、一時保育などの新たな保育ニーズに的確に対応するとともに、幼保一元化モデル事業を行うために建設したもので、隣接地には、同保育所の運営委託先である学校法人登別立正学園の白雪幼稚園も新設され、同保育所と渡り廊下で結ばれています。

同事業は、対象児童の年齢や入所基準、保育時間などに違いのある保育所と幼稚園の垣根を乗り越え、保育所機能と幼稚園機能を最大限に活用し、一体化したカリキュラムに基づく、保育所児・幼稚園児の混合クラス導入など、就学前の子どもの保育・教育を一体的に行うもので、この取り組みは、道内で唯一、国の総合施設モデル事業に採択されました。

地域住民や保護者が見守る中行われたオープニングセレモニーでは、上野市長が「みんなの知恵を合わせながら、良い教育・保育をし、登別らしい幼児教育・保育を確立していきたい」と同事業への意気込みを述べました。

なお、同保育所には、親と子が集い交流し、子育て相談などを行う登別子育て支援センターが併設されています。



練習の成果を発揮して

～第43回北海道障害者スポーツ大会～



左から鈴木さん、今さん

7月9日(土)・10日(日)、西胆振8市町村を会場に第43回北海道障害者スポーツ大会が開催され、水泳や車いすバスケットボール、卓球、陸上など全14競技が行われました。

この大会は、身体障害者や知的障害者がスポーツを通じて、健康の維持・増進や、自立と社会参加の促進を図り、障害者に対する理解を深めるとともに、障害者のスポーツをより発展させることを目的に開催されています。

登別市では、水泳と車いすバスケットボールが実施され、市民プールで行われた水泳には、市内から今順子さんと鈴木美和子さんの2人が50m背泳ぎに参加し、それぞれ練習の成果を十分に発揮して力強く泳いでいました。

地区の課題解決のために

～『平成17年度町内会等地区課題(要望)』ヒアリング～

7月12日(火)・13日(水)の2日間、市役所で『平成17年度町内会等地区課題(要望)』のヒアリングが行われました。

町内会等地区課題(要望)は、各町内会・町会・自治会の抱える課題(要望)を市に提出。その事項を担当する市職員が町内会等役員から直接話を聞き解決を目指すものです。

今年度は、市内98町内会等31町内会等から106の課題(要望)が提出されました。

提出された内容は、横断歩道や信号機、カーブミラー、街路灯の設置、公園整備、道路整備、放置自動車、不法投棄に関する問題などさまざま。町内会等役員は、地区の抱える課題(要望)を地図や写真などを使いながら詳しく説明していました。

